

令和 7 年度 第4回 学校運営協議会 議事録

日程:2025 年 10 月 30 日(木)

時間:15 時 30 分~17 時 00 分

場所:第六中学校／第 1 応接室

参加:(委員)9 名*オンライン参加 3 名含む

(教員)1 名*協議項目 3. 担当者

(教育委員会／指導室)1 名*オブザーバー

(事務局)1 名

進行:担当委員／記録:担当委員／文責:担当委員

報告・協議 ●報告と状況説明 ・感想や質問、意見など

I 合唱コンクールを終えて

【参加委員の感想】

・外での練習は見ることができなかつたが、本番ではどの生徒も恥ずかしがることなく真面目に歌っていた。他校では生徒による碎けた曲紹介を見ていたので、それも含めて真面目に取り組んでいるのが新鮮だった。

・声変わりの時期で歌うのが大変かと思ったがそんなことは全くなかった。合唱部がとても上手でよかったです。

・PTA での会場内パトロールの担当があり早めに着いたのでロビーでの練習から聞くことができた。

・恥ずかしがらずに真剣に歌っている生徒たちの姿が非常に嬉しく感心した。

・他校と比較すると六中は会場のスペースに余裕があった。

・六中には合唱部があるので、合唱部が引っ張っていて全校にいい影響があるのではないか。

・伴奏が途中で止まってしまったクラスも動じることなく歌い続けられていた。あるクラスの実行委員長がステージを降りた後、伴奏が止まってしまった生徒を優しくフォローしていて感動した。

・コンクール前の音楽の授業もとてもよかったです。発声練習から入って音楽との向き合い方や歌うこと恥ずかしない姿勢など、指導の成果が出ているのではないか。

・途中から参加した。扉の外で待ちながら聴いていたが、外で聞いていてもよく歌えていると感じた。自分たちが何を表現するかを考えながら歌っていたのではないかと思った。

●実施後のアンケート(保護者の声)について

委員で保護者アンケートを読み、肯定的な意見が多数であったことを確認した。

現地集合が不安という保護者の声が1件。

欠席者向けにオンラインで見られるように配信したが、Google Meetに入れなかつたが1件あった。

→おそらく早めに入室したのではないか。※オンライン配信している学校はほぼないと思われる。

●合唱コンクールの DVD 販売について

著作権の関係で入れられない曲もあり、六中では販売していない。保護者は撮影可能。

・保護者撮影禁止の中学校は DVD を販売している。(生徒数が多いため購入者は割と多い)

・会場でのスマホによる写真や動画撮影の許可は、保護者のモラル次第ではないか。

・採点のプロセスや基準はどうなっているのか？

(回答)4つの観点を生徒に示し、採点している。審査員が採点し、合計得点で順位が決まる。得点は集計した先生のみ知る極秘情報。生徒の審査の方が厳しい。採点で妥当性を図るのは難しいため、点数は公表していない。

・六中は制服が選べるので、舞台上の生徒の制服がそろっていないところが逆に多様性が出ていてよかった。

紺のポロシャツで統一しているクラスもあり、生徒主体で決めている。

・生徒の好みが自由に表現できている。校長先生の思いが浸透していると感じた。

●校長より

合唱コンへの思いは学校だより(10月号)に書いた通り。朝礼で学校だよりに載せた内容を話した際、全校生徒は真剣に聞いていた。

2 ジュニア研修部に参加して

【有識者の委員より】

・大変珍しい取り組み。どの学校も先生が授業をして他の先生が参観するのが主流なので、生徒が校内研修に入るのは珍しい。

・先生は慣れた様子で、子供たちもプライドを持って参加し、大人顔負けの発言をしている。

・目標を示して学習を始めると、自分たちで学びを考えるようになる。一方で、目標を示されるとイヤだという生徒の声もある。例えば、Aと示されて到達したらそれで終わる。Aのために頑張るのは主体的なのか？主体的に学ぶことを目指せる姿を目標としている。

・とても先進的なことをやっている。生徒の声を受け入れる先生の器、土壤がすばらしい。先生が尊敬されるきっかけにもなる。校長先生のおっしゃる奇跡の職員室に納得した。

【オブザーバーより】

・教員にとって非常に良い研修だった。教員だけの研修では、あまり厳しいことが言えないため活発に行われなかつたのではないかと感じている。先生方が生徒の意見を受け入れて次の授業に生かそうと考えている。

・こうして子供たちが力をつけていく。奇跡の職員室を目の当たりにして感動した。

【校長先生より】

●ジュニア研修部は六中独自の取り組み。加賀市の小林先生との話から、パネルディスカッションに生徒が参加することはあるが、その場だけの参加ではなく、継続して参加する形にしてはとひらめいた。

●研修部の生徒は、全校にアンケートを取り「ぜひやりたい」と回答した23人。「やってもいい」という選択だと100人を超えるのでぜひやりたい生徒に絞った。

●研修では子どもに引っ張られすぎない、子どもの言葉を盾にしない。

→これを根底に意識しないと子どもの声を利用して大人の持っていきたい方向に持っていくがちになる。

●教員が「生徒にこういう力をつけたいからこうしたい」ということを示しながら生徒と対話する。先生にも学びが必要となり、よい学びのサイクルが生まれる。

●研修部は、昨年からのメンバーに今年新たに加わった生徒もいる。

・現在のジュニア研修部各学年の内訳は？（回答）1年：8人 2年：7人 3年：8人

●研修で出た生徒の声（例）

「A先生のこういうところが面白いからB先生も取り入れてほしい」

「振り返りの時間がA先生は少ない。時間を確保してほしい」

→自分たちも授業をつくっているのだから、「どうしていこうか」を生徒も意識する、というのが次段階。

3. 現状の課題（校長、生活指導主任）

内容は非公開。

4. その他

統括コーディネーターより、CS実践発表会は他校に依頼することにした。

5. 今後の活動予定について

○次回 CS会 令和7年12月18日(木) 15時30分～